

# タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2017 成果報告レポート

助成番号 17-1-1

プロジェクト名 長期療養児向けのスポーツ・レクレーションプログラムの展開と人財育成  
団体名 特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan  
所在地 東京都  
助成額 180 万円  
設立年 2009 年  
URL <http://www.beingalivejapan.org/>



## (団体について)

当団体は、スポーツを通じて長期療養中の子どもの自立支援をはじめ、こどもたちの長い療養生活を支え、応援する人達を社会に創出する TEAMMATES 事業を病院の中、地域社会の中で展開しています。

## (助成による活動と成果)

今回の助成では、長期療養児とそのごきょうだい、友人がともに楽しめるスポーツ・レクレーションプログラムの展開、またそれに必要な人財育成研修プログラムの初級講座の開発と実施をしました。

患者団体や大学と共に、スポーツプログラムを 2 回開催、合計 23 名のこどもとそのきょうだい、友人に活動提供をしました。小児がんのお子さんをはじめ、補装具を日常的に必要とするお子さん、在宅酸素を使っているお子さん等、様々な身体条件のお子さんが参加しました。また約半数ほど、スポーツ活動に参加した経験がないお子さんも参加しており、参加したお子さんから「いつもできないことを、我慢もせずにいっぱいやれて楽しいです。」という感想を頂きました。またご家族からも、「スポーツと聞いた時、うちの子は参加できないかもと思いました。でも、様々なお子さんの身体条件に合わせた参加方法やルールが用意されており、初めての経験に取り組む息子の真剣な顔や周りとハイタッチをし、生き生きした姿が見ることができて、とても嬉しかったです。」という声も頂きました。

また長期療養中のこども向けのスポーツ・レクレーションプログラムを企画・運営する人財育成を目的に、初級講座の開発と研修の実施をしました。研修は、長期療養生活がこどもの日常生活や成長発達に与える影響や、またスポーツ・レクレーション活動を通じた支援に関する内容となります。米国認定の専門資格「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」や「セラピューティック・レクレーションスペシャリスト」が講師を行い、また協力アスリートより「アスリートができる小児医療の貢献」に関して話していただきました。

合わせて活動を展開する上で、実施施設や連携団体に説明する資料(活動広報誌)も作成しました。今後、資料を病弱特別支援学校や患者・家族の会に配布していきます。また NHK の「おはよう日本」の番組で約 5 分程度、活動を取り上げて頂き、多くの方に活動の存在を知っていただく機会に繋がりました。

### （残された課題、新たな課題）

当団体は入院中のこども向けのスポーツ活動を提供しており、主な参加者は当団体の活動に一度病院内で参加経験のあるこどもたちです。今回、資料を病弱特別支援学校や患者会に郵送しただけでは、参加者の募集に至りませんでした。まだ「病気のあるこどもでもスポーツ活動に参加できる」認識が低いため、今後はホームページ、SNS、郵送を通じた募集だけではなく、作成した広報誌で特別支援学校や患者会に問い合わせをし、直接ご家族等に活動紹介する、Face to face で募集をすることも重要だと考えています。

また当活動では、学校の友人も参加可能な活動ではありますが、友人への声かけを控えるこどもが多かったように思えます。その理由として、身体活動の程度が低いスポーツ活動のイメージが強く、友人への声かけを控えているご家族もいることがヒアリングより明らかになりました。回復したこどもたちの参加は、現時点で治療や療養を頑張っているこどもたちのモチベーションにも繋がるため、様々な身体レベルでも楽しめるスポーツプログラムの企画と発信、またピアサポート効果に繋がる活動づくりをしていきたいと考えています。

### （活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

小児がんをはじめ、長期的に治療・療養を必要とすることもが全国に約 25 万人います。医学が進歩し助かる命が増えた一方、学校や地域で日常生活を送りながら、継続的に通院治療や長期療養を必要とすることもたちと支えるご家族が増えています。長期療養生活は、こどもの体力の低下、ストレス増加、自信の低下、友人との関係構築の難しさ等、こどもの身体面のみならず、精神面や社会面の発達にも影響を与えます。長期療養を必要としながらも、成長発達していくこどもが増える現状に対し、療養中の身体面、精神面、社会面の自立を支援することは重要です。また長期療養児とそのご家族を支えるコミュニティづくりも、今後重要なとなっています。

スポーツには人と人を結びつける力があり、応援し応援される関係を構築することができます。またこどもたちは身体面、精神面、社会面の成長を促すこともできます。日本ではまだ長期療養児等、身体制限のあるこどもが参加できるスポーツ・レクレーション活動が少ない現状があります。長期療養児向けのスポーツ・レクレーション活動の展開、そして人財育成することで長期療養児の自立支援をはじめ、長期療養児とその家族を支える人の存在、そしてコミュニティをつくっていくことに繋がります。

今後も、継続的に長期療養中のこども向けのスポーツ・レクレーション活動の企画・開催実績を積み重ねることで、長期療養児とそのご家族を支える人の存在を社会に創出する事業モデルを構築し、そして全国展開を目指していきたいと考えています。

以上